

公立高校・都立高校の入試制度

【目次】

- | | |
|-------------------|---------|
| 1. 神奈川県公立高校入試について | P 1～ 8 |
| 2. 東京都立高校入試について | P 9～13 |
| 3. 国私立高校入試について | P 14～19 |

1. 神奈川県公立高校入試について

(1) 公立入試制度

■ 公立入試制度について

- ① 入試の機会は1回のみ。ただし、倍率を見て志願変更が1回可能。また、病欠者のための追検査日がある。
- ② 全志願者に共通の「学力検査(入試)」を実施する。マークシート方式だが、英語と国語のみ一部記述問題を採用する。1教科100点満点で原則5教科500点満点。
- ③ 選考は「調査書(内申)」と「学力検査(入試)」で行う。面接は2024年度から基本的になくなった。
- ④ 一部の高校で、「特色検査」を実施する。「自己表現検査」は学力向上進学重点校とそのエントリー校で行われる。「実技検査」や「面接」は主に専門コースで行われる。配点は各高校の任意で100～500点。
- ⑤ 出願と合格発表はインターネットで行う。学力検査の得点結果と答案の写しは受検校で受け取るか郵送。

① 志願変更と学力検査(入試)

- ・志願変更は1回のみ可能。
- ・入試は2月中旬の「共通選抜」1回のみ。
- ・病欠者のために約1週間後の追検査日を設定。

公立入試カレンダー(2025年度)

1/23(木)～1/29(水)	出願
2/4(火)～2/6(木)	志願変更
2/14(金)	学力検査(共通選抜)
2/14(金)～2/18(火)	特色検査
2/20(木)	追検査日
2/28(金)	合格発表

② 全志願者に「学力検査(入試)」を実施

- ・学力検査は英数国理社の5科目が原則。
 - ・1科目100点×5科目＝500点満点。
 - ・特色検査を実施する場合は、学力検査を3科目まで減じることが可能。
- (例) 神奈川総合(国際文化・舞台芸術): 英数国と理社から1科、相模原弥栄(音楽・美術): 英数国3科など。

③ 選考方法

- ・2024年度より、面接は特色検査として一部の専門性の高いコースとクリエイティブコースのみで実施された。
- なお、詳細は毎年7月頃に発表される。

■ 選考資料

・A値: 調査書(内申)

中2学年末の内申(45点満点) + 中3の12月の内申×2(90点満点) = 135点満点。
ただし、高校ごとに3科目まで2倍以内の重点化が可能。

・B値: 学力検査(入試)

英数国理社の1科目100点×5＝500点満点。
ただし、高校ごとに2科目まで2倍以内の重点化が可能。

・C値: 観点別学習状況

中3の12月の各科目の観点別評価「主体的に学習に取り組む態度」3点満点×9教科＝27点満点。観点別評価はA°・A＝3点、B＝2点、C°・C＝1点とする。

・D値: 特色検査(自己表現検査、実技検査、面接)

自己表現検査は18校が100点満点の共通問題を利用するが、その他の検査は各高校独自のもので算出方法も異なる。

■ 選考方法

・第1次選考(定員の90%)

調査書(内申)のA値を100点満点に換算した(a)と学力検査(入試)の得点B値を100点満点に換算した(b)を基に、各学校で定めた比率(f, g)に基づき合計数値を算出する。ただし、(f, g)は2以上の整数で $f+g=10$ を満たすように設定する。

$$S_1 = (a \times f) + (b \times g)$$

特色検査を実施した場合は、その結果D値を100点満点に換算した(d)を基に、各学校で定めた比率(i)を乗じた数値を加える。(i)は1以上5以下の整数とする。

$$S_1 = (a \times f) + (b \times g) + (d \times i)$$

・第2次選考(定員の10%)

学力検査(入試)の得点B値を100点満点に換算した(b)と、観点別学習状況のC値を100点満点に換算した(c)を基に、各学校で定めた比率(g, h)に基づき合計数値を算出する。(g, h)はそれぞれ2以上の整数とし、 $g+h=10$ を満たすように改めて設定する。

$$S_2 = (b \times g) + (c \times h)$$

特色検査を実施した場合は、上記の式にD値の数値を加算する。計算方法は第一次選考と同じである。

$$S_2 = (b \times g) + (c \times h) + (d \times i)$$

なお、横浜国際の国際バカロレアコースは第2次選考を行わない。

④ 各選考資料の配点割合についてのまとめ

・調査書(内申)135点満点、学力検査(入試)500点満点の場合、高校ごとの比率によって以下ようになる。

■ 第1次選考のS値における調査書(内申)と学力検査(入試)の価値

比率 (内申:入試)	内申1点がS値1,000点満点 に占める割合	入試1点がS値1,000点満点 に占める割合
200:800	1.48点	1.6点
300:700	2.22点	1.4点
400:600	2.95点	1.2点
500:500	3.70点	1.0点
600:400	4.44点	0.8点
700:300	5.19点	0.6点
800:200	5.93点	0.4点

・2025年度における各高校の比率は、500:500が全体の約50%と最も多かった。

■ 2025年度の比率例

内申:入試	高校例
300:700	横浜翠嵐・柏陽・横浜SF・神奈川総合(個)・市立桜丘・海老名など
400:600	湘南・横浜緑ヶ丘・川和・多摩・希望ヶ丘・神奈川総合(国・舞)・大和・座間・市立東・住吉など
500:500	相模原・横浜平沼・新城・市ケ尾・生田・相模原弥栄(全科)・市立戸塚(一・音)・港北・元石川・鶴見・市立みなと総合・岸根・横浜瀬谷・橋本・麻生・城郷・霧が丘・百合丘・旭・川崎北・新栄など
600:400	荏田・新羽・白山(美)・商工など

■ 第2次選考のS値における観点別評価と学力検査(入試)の価値

比率 (観点別評価:入試)	観点別評価1点がS値1,000点 満点に占める割合	入試1点がS値1,000点満点 に占める割合
200:800	7.4 点	1.6 点
300:700	11.1 点	1.4 点
400:600	14.8 点	1.2 点
500:500	18.5 点	1.0 点
600:400	22.2 点	0.8 点
700:300	25.9 点	0.6 点
800:200	29.6 点	0.4 点

- ・200:800の比率を採用した高校は全体の約70%で、800:200を採用した高校はなかった。なお、2次選考では観点別評価の比重が大きいため、入試得点力のみの逆転が難しくなった。

⑤ 「特色検査」について

- ・特色検査は必要な高校のみが実施する。実技検査と自己表現検査と面接の3種類がある。
- ・実技検査と面接は主に専門コースで実施されて適性が判断される。
- ・自己表現検査は主にトップ校で実施され、情報活用力・論理性・思考力・表現力などをみる。以前は、各高校で独自に問題を作成していたが、2019年度から横浜翠嵐・湘南・柏陽・厚木・希望ヶ丘・横須賀・平塚江南の7校は共通問題と共通選択問題を用いた。2019年度に独自の自己表現検査を実施した高校には、横浜国際の口頭試問、神奈川総合(国際)の集団討論、横浜緑ヶ丘があった。
- ・2020年度より全ての学力向上進学重点校とエントリー校で自己表現検査を実施。新たに川和・多摩・大和・相模原・横浜平沼・光陵・鎌倉・茅ヶ崎北陵・小田原の9校が加わった。2021年度より横浜緑ヶ丘、2022年度より横浜国際が共通問題を採用して、横浜SFと横浜国際のIBのみ独自問題を実施した。
- ・2024年度より選択問題は5つから4つになり、各高校が2問選択するようになった。

■ 選考資料・選考方法

A値:調査書(内申)、B値:学力検査(入試)に、特色検査の結果としてD値を加算したS値の高い順に合格者を決定する。D値は100~500点満点とし、各高校で設定する。特色検査を実施する高校は、学力検査(入試)を3~5科目から設定する。

■ 自己表現検査の出題内容(2025年度共通問題)

- 共通問題1:オーバーツーリズムと観光地のゴミ問題の英会話文とディベート(5問)
- 共通問題2:物流に関するエレコム社のウェブサイト引用から科目横断的な設問(5問)
- 選択問題3:災害に関する会話文から資料読み取り・古文・内容一致・計算(6問)
- 選択問題4:独立問題で空欄の記述・立体図形・あみだくじ(5問)
- 選択問題5:コーヒーに関する数学・理科・社会的な思考問題(6問)
- 選択問題6:河川に関する数学・理科・社会的な思考問題(7問)

■ 自己表現検査(共通問題 18 校)の出題一覧(2025 年度)

	問1	問2	問3	問4	問5	問6
横浜翠嵐	●	●			●	●
湘南	●	●	●	●		
柏陽	●	●	●		●	
川和	●	●	●	●		
厚木	●	●			●	●
横浜緑ヶ丘	●	●		●	●	
多摩	●	●		●	●	
希望ヶ丘	●	●	●			●
大和	●	●	●		●	
相模原	●	●	●		●	
光陵	●	●	●		●	
横須賀	●	●	●		●	
小田原	●	●	●		●	
平塚江南	●	●		●	●	
鎌倉	●	●	●		●	
横浜平沼	●	●	●		●	
茅ヶ崎北陵	●	●	●		●	
横浜国際(国)	●	●	●		●	

■ 実技検査の例(2025 年度)

高校名	特色検査	評価の観点	検査の概要
神奈川総合 舞台芸術科	身体表現 演技表現	・身体を動かす能力 ・表現の創意工夫 ・言葉で伝える能力	・出願時に与えられた「歩く」「走る」「ジャンプする」などの動作を連続して行う。 ・出願時に与えられた課題文(戯曲または会話のあった文)を声に出して読む。
相模原弥栄 美術科	デッサン	・表現の技術 ・表現の工夫	- 与えられた題材 3 つを鉛筆デッサン(素描)する。 ・鉛筆(2H・H・F・HB・B・2B・3B・4Bの範囲で使用可)を持参する。 ・B4 画用紙は学校で用意する。 ・検査時間は 90 分とする。
相模原弥栄 スポーツ科学科	運動	・基本的技能 ・応用技能	1) 基礎身体運動技能(全受検者共通) 走力、跳力、投力 2) 専門競技運動技能(必修選択) バレー、バスケット、バドミントン、サッカー、陸上競技、剣道、ベースボール型実技、総合運動技能の 8 種目から 1 種目を選択し、技能検査。※ただし、陸上競技は、「短距離走、中・長距離走、ハードル走、跳躍、投てき」から 1 種目を選択する。

(2) 入試制度の傾向と対策

年度や科目によって難易度の変化はあるものの、出題形式に大きな変更はなかった。どの科目にも共通しているのは、他府県の公立入試よりも圧倒的に文字数が多いことと、そこから必要な情報を素早く探し出したうえで知識を組み合わせることで答えることである。以下に入試対策を述べる。

① 学力検査(入試)について

■ 内申重視の高校は入試での逆転が難しい

A 値(内申)と B 値(入試)の比率が 500:500 で特色検査実施校の相模原・横浜平沼などは、内申の 6 点差を入試得点で逆転するのに約 22 点多くとる必要がある。トップ校である相模原は、通常難易度であれば合格平均点は約 390 点強である。さらに 22 点多くとうとすると 412 点以上が必要となるので、川和高校にも合格できる点数になってしまう。そのため、トップ校の合格にはまず内申を上げることが重要になってくる。

もし内申が低ければ、内申 300:入試 700 で入試重視の高校を選択することも一つの手である。あるいは、特色検査の自己表現検査で得点力があるならば、内申不足を逆転することも十分可能である。相性のよい選択問題が出て、かつ自己表現検査の比率が 200 点のトップ校を検討するとよい。

なお、志願変更後の倍率より最終倍率が下がる高校は、一部のトップ校のみである。理由は、国私立難関校に一般受験で合格した後で、公立入試を辞退するからである。2025 年度に辞退者が多かった高校は、横浜翠嵐の 36 名だった。逆に辞退者が少なかったトップ校は、横浜緑ヶ丘の 4 名、川和の 6 名、多摩の 9 名、希望ヶ丘の 7 名、相模原の 2 名、大和の 4 名などがある。近年、横浜翠嵐を含めて辞退者が減少傾向にある。理由として、横浜翠嵐など公立トップ校の大学合格実績が伸びているために、東京学芸大附属などの国私立難関校よりも魅力を感じる人が増えているためと思われる。

内申:入試	内申 1 点を入試に換算した点数
200:800	内申 1 点=入試 0.92 点
300:700	内申 1 点=入試 1.58 点
400:600	内申 1 点=入試 2.46 点
500:500	内申 1 点=入試 3.70 点
600:400	内申 1 点=入試 5.55 点
700:300	内申 1 点=入試 8.63 点
800:200	内申 1 点=入試 14.80 点

■ 入試で逆転するには…



Xくん

(A値 108/135 [36/45]、B値 380/500)



Yくん

(A値 102/135 [34/45])



- ・A値:B値=200:800 の学校を受検する場合
⇒ 入試で **6 点多く(386/500)**とれば逆転!
- ・A値:B値=300:700 の学校を受検する場合
⇒ 入試で **10 点多く(390/500)**とれば逆転!
- ・A値:B値=400:600 の学校を受検する場合
⇒ 入試で **15 点多く(395/500)**とれば逆転!
- ・A値:B値=500:500 の学校を受検する場合
⇒ 入試で **23 点多く(403/500)**とれば逆転!
- ・A値:B値=600:400 の学校を受検する場合
⇒ 入試で **33 点多く(413/500)**とれば逆転!
- ・A値:B値=700:300 の学校を受検する場合
⇒ 入試で **52 点多く(432/500)**とれば逆転!
- ・A値:B値=800:200 の学校を受検する場合
⇒ 入試で **89 点多く(469/500)**とれば逆転!

■ 2025 年度の出題傾向と今後の対策

学力検査の全公立校合格者平均点は年度によって変化する。特に、2017 年度の 30 点以上の大幅易化は、マークシートの導入と記述問題の大幅な削減が原因であった。

このような制度変更の背景には、2016 年度に起きた採点ミスの問題がある。記述問題は、字数が多くなればなるほど一つの模範解答に集約することが難しい。また、採点する際に基準を設けても、どうしても採点者によってズレが生じる。ある高校の校長の話によれば、採点ミスを防ぐために合計 5 回ものチェックを行い、それでも疑問点が出るたびに会議を開いて決定したという。そのため、記述問題の分量を減らして採点しやすくすることを念頭に問題が作成された。

■ 合格者平均点の推移

	英語	数学	国語	理科	社会	平均点
2024年度	47.0	55.6	64.0	57.3	54.8	278.7
2023年度	55.3	53.0	75.1	51.0	58.4	292.8
2022年度	52.1	52.9	61.3	58.9	62.4	287.6
2021年度	54.6	58.2	65.7	50.1	72.6	301.2
2020年度	49.4	55.7	69.1	55.9	58.2	288.3
2019年度	49.8	50.3	59.1	61.3	42.5	263.0
2018年度	56.1	56.0	65.6	45.3	41.8	264.8
2017年度	51.9	63.5	73.1	46.9	54.5	289.9
2016年度	43.0	51.7	64.7	46.5	52.0	257.9
2015年度	51.8	52.6	64.4	37.4	50.2	256.4
2014年度	59.6	51.7	60.8	38.6	49.5	260.2

さて、全体の傾向として前年より易化した場合は、トップ校と中堅校以下の受検者にはあまり影響がない。しかし、準トップ校や中堅校では大幅な得点上昇が起きがちである。この記事を作成した 3 月 20 日現在では、教育委員会による合格者平均点が発表されていないため、以下に 2025 年度の出題傾向と対策のみをまとめる。

◆英語…問 2 から問 5 の文法問題が難化、問 6 以降の長文が易化。

- ① 大問 2 の会話文による適語選択では、選択肢の語彙レベルが難化。大問 4 並び替えはやや易化。
- ② 長文問題では、平易な内容や食糧問題がテーマで取り組みやすく、選択肢の単語数が減少。
⇒ 文法的な思考力に加えて語彙力が必要。配点の高い長文問題に時間配分が多く割けるようにする。

◆数学…やや難化。解答までの手順の多さ、数値の計算しにくさ、20 点分の超難問という傾向は同じ。

- ① 教科書レベルの例題や練習問題が確実に解ければ、50 点を超えることができる。
- ② 残りの 50 点中 30 点分は高い思考力を求めないが、面倒な計算や手順を必要とする。
⇒ 大問 1 と 2 で満点を取りつつ、問 3 以降で確実に解ける問題で点数を積み重ねる力をつけるようにする。

◆国語…大幅易化。大問 3 の論説文後半の内容以外は、全て昨年の問題より解きやすくなった。

- ① 大問 2 の物語文や大問 4 の古文が読みやすく、かつ設問の傍線部分とヒントの文が近くて見つけやすい。
- ② 大問 5 は資料の文字数が増えたが、記述問題は指定語句を含んだ部分のみを使って要約しやすい。
⇒ 初見の読解問題を解く基本的な方法や古文の基本知識を身に付けて演習を重ねることが必要。

◆理科…難易度はやや難化。細かい知識が要求され、条件に合わせた思考が必要な問題も出題されている。

- ① 大問 1 から大問 4 までの小問集合では、細かい知識を問う問題が昨年よりも多く出題されてやや難化した。
- ② 長い問題を読んで整理・考察する力は依然として必要とされている。
⇒ 大問 1 から大問 4 までの分野別問題で確実に得点を重ねる基礎知識を身に付ける。加えて、大問 5 以降の単元をまたいた知識を組み合わせる答えを出す問題は、秋以降の演習と復習が重要。

◆社会…やや易化。基本的な知識で解ける問題が増えたが、読解力を必要とする問題の出題傾向も続く。

- ① 6 択の選択肢問題が昨年より 1 題増えて 9 題。しかし、8 択が昨年の 6 問から 3 問に減り、9 択はなかった。
- ② 過去 3 年間難化していたが、資料の読み取り問題は計算などの手順が少なく取り組みやすかった。
⇒ 教科書を読んで、細かい部分まで覚え直す。忘れては覚えての繰り返しを行う。さらに、秋以降には、他県も含めた入試の過去問で演習を行って、解くコツをつかみながら忘れた部分も復習するとよい。

② 得意科目から高校を選ぶ

■ 重点化を利用する

重点化は学校が求める生徒像を打ち出したものだが、受験生の得意科目と合致するのであれば、受験をより有利にすることができる。

例えば、神奈川総合(個性化)は「学力検査(入試)のうち、点数の高い1教科を2倍」という重点化を行う。仮に右の表のように、内申点と入試得点が同じであっても、得意科目があれば逆転が可能である。

このように、得意科目と受験校の重点化が合致した場合は、有利な受験ができる。学校の校風が自分に合うかどうか重要だが、ボーダーライン近くならば得意科目を生かせる受験も検討すべきである。

■ 重点化の例(2025年度の入試方法)

神奈川総合(個)[A:B=3:7] 学力検査の高得点1科2倍

・Xくん A:内申点 120/135 点、B:学力検査 400/500 点

	英	数	国	理	社	計
入試得点	85	70	85	75	85	400/500
重点化	170	70	85	75	85	485/600

⇒S値:832.4P (A 値 266.6+B 値 565.8)

・Yくん A:内申点 120/135 点、B:学力検査 400/500 点

	英	数	国	理	社	計
入試得点	100	70	85	70	75	400/500
重点化	200	70	85	70	75	500/600

⇒S値:849.9P (A 値 266.6+B 値 583.3)

17.5P の逆転！

■ 重点化の例(2025年度)

高校	第1次選考の重点化項目
市立横浜 SF	調査書:英・数・理 2 倍 学力検査:数・理 2 倍
神奈川総合(個)	学力検査:点数の高い1教科 2 倍
神奈川総合(国)	学力検査:英 2 倍
横浜国際(国際)	調査書:英 2 倍 学力検査:英 2 倍
市ケ尾	調査書:音・美・保体・技・家のうち、点数の高い1教科 2 倍
市立東	学力検査:英 1.5 倍
市立横浜商業(国)	調査書:英 2 倍 学力検査:英 2 倍
市立横浜商業(ス)	調査書:保体 2 倍
市立南	学力検査:英 1.5 倍 ※2026 年度より募集停止
大和西	調査書:英 2 倍
相模原弥栄(美)	調査書:美 2 倍
相模原弥栄(音)	調査書:音 2 倍
相模原弥栄(ス)	調査書:保体 2 倍
神奈川総合産業	調査書:英・数・理各 2 倍
荏田	調査書:音・美・保体・技・家のうち、点数の高い1教科 2 倍
白山(美)	調査書:美 2 倍

③ 特色検査

特色検査の自己表現検査は、旧入試制度の前期選抜を踏襲した内容となっている。2025 年度では、横浜サイエンスフロンティア・横浜国際の IB のみ独自問題を実施した。他は共通問題と各校が事前に指定する選択問題からなり、マークシート方式が採用されている。問題の難易度はこの 3 年大きな差はないが、時間内に全て解くことは難しい。よって、全校共通の大問 1 と大問 2 でなるべく多く得点することが重要である。また、各高校が事前に大問 2 題を指定する選択問題では、解けそうな問題のみを選んで時間をかける必要がある。

この高校ごとの選択問題は、2025 年度でも大問 3 と 5 に人気が集中している。大問 3 は 13 校で、大問 5 は 15 校に選ばれた。いずれにしても副教科も含めた幅広い知識を蓄えたうえで、それらを組み合わせで論理的に答えを導き出す練習を重ねる必要がある。

一方、相模原弥栄のスポーツ科学科、美術科、音楽科の実技検査も昨年度までの内容と同様である。横浜国際の IB コースでは、100 点中 50 点分の配点で 200 語以内の英語記述問題が出題される。英検準 2 級以上で出題される記述問題などで練習を行うとよいだろう。

■ 特色検査の例(2025 年度選択問題 5(ア)より)

コーヒーサイフォンの仕組みについて

- (ア) コーヒーサイフォンに興味をもったレンさんがまとめた次のレポート 1 中の あ ～ う にあてはまるものとして最も適するものを、あとの 1～3 の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号を答えなさい。

レポート 1

コーヒーサイフォンの装置は図 1 のように配置された漏斗とフラスコから構成されている。フラスコ内部に水を入れ、漏斗には底部にフィルターを付けたうえでコーヒーの粉を入れる。漏斗とフラスコの接続部はガラス管を通して隙間なく密閉されている。

フラスコ内部の水を加熱器具で加熱するとフラスコ内の気体の部分の圧力は あ , その後フラスコ内の湯の大部分が漏斗内に移動したときに加熱をやめた。加熱をやめるとフラスコ内の圧力は い , やがて漏斗内のコーヒー液はフラスコ内に移動する。フラスコ内の気体の圧力が最も高くなる瞬間は う であると考えられる。

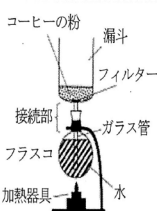


図 1

- あ の選択肢 1. 高くなり 2. 低くなり 3. 一定のまま維持されて
- い の選択肢 1. 高くなり 2. 低くなり 3. 一定のまま維持されて
- う の選択肢 1. フラスコ内の湯がガラス管内を通過して上がり始めたとき
2. フラスコ内の湯が漏斗へ上がり終えたとき
3. 漏斗内のコーヒー液がガラス管内を通過して下がり始めたとき

④ 得点開示について

2016 年度の入試において、理科の大問 3 の(ウ)で正答が 2 つある出題ミスがあり、受検者全員に 3 点が加算された。また、88 校 330 人で小問の合計得点などに誤りがあり、本来合格するはずであった 2 名が不合格となっていた。これを受けて、2015 年度の採点に関しても答案を廃棄した 3 つの高校以外で調査が行われた結果、71 校 188 人に採点ミスが見つかり、2 名が不合格とされていた。そのため、2017 年度の合格発表から受検者全員に各科目の答案の写しが配布される。現在は、合格者には手渡しで、不合格者には郵送される。

⑤ 併願校の選び方

旧入試制度では、日程的に前期選抜の合格者は私立の併願校受験を辞退していた。しかし、2013 年度以降は、公立高校を第 1 希望とする生徒のほとんどが、私立の併願校を受験することになった。また、公立の受験回数も一度だけとなってしまったため、進学しても悔いのない併願校選びを行う必要がある。

私立高校の中には、大学の附属校など公立高校にはない魅力を持つところもある。したがって、私立高校をただ公立の滑り止めとして受験するのではなく、公立高校と同ランクの私立高校を第 2 希望校とした受験プランも考えた方がよい。中 3 の 12 月の内申が上がった時、変わらなかった時、下がった時と 3 通り決めておくことで中学での三者面談時に焦らずに入試相談をしてもらうことができる。

注: 公立入試は「学力検査」を実施するため、「受験」と表記し、国私立の入試に関しては「受験」と表記しました。

2. 東京都立高校入試について

(1) 推薦入試【入学定員の 20%程度】

推薦入試の募集定員は、普通科 20%、農業・商業・産業科 40%、工業科 50%、その他 30%が上限である。また、小論文・作文・実技検査※のうち1つ以上の検査と面接をすべての学校で実施し、そこに調査書の点数を加えた「総合成績」の上位の受検者から合格になる。試験日は例年 1 月 26 日頃。推薦入試では志願変更ができない。

推薦入試の応募倍率は、以前は 3 倍を超えるところがほとんどだったが、近年は都心にあり人気がある高倍率の学校と低倍率の学校という二極化が目立つようになってきた。また、推薦入試はそもそも募集定員が少なく、小論文・作文※の対策も必要になるうえ、選考の約 50%が調査書点で決まってしまう。そのため、一般入試でも余裕を持って合格できそうな調査書点を持っていないと、推薦入試での合格は厳しい。

※2024 年度より新型コロナ対策として、集団討論は必要と判断した学校のみが実施する。

■ 推薦入試の選考一覧および応募倍率(2025 年度)

高校名	募集定員割合	調査書配点	個人面接・ 集団面接配点	小論文・作文・ 実技検査配点	満点	応募倍率
日比谷	20%	450 点 (50%)	200 点 (22%)	【小】250 点 (28%)	900 点	3.17
西	20%	360 点 (40%)	240 点 (27%)	【作】300 点 (33%)	900 点	2.77
国立	20%	450 点 (50%)	150 点 (17%)	【小】300 点 (33%)	900 点	3.44
戸山	20%	450 点 (50%)	150 点 (17%)	【小】300 点 (33%)	900 点	3.55
青山	20%	450 点 (43%)	100 点 (9%)	【小】500 点 (48%)	1050 点	4.25
立川(普)	20%	500 点 (50%)	100 点 (10%)	【小】400 点 (40%)	1000 点	3.43
八王子東	20%	500 点 (50%)	100 点 (10%)	【小】400 点 (40%)	1000 点	2.03
新宿	10%	450 点 (50%)	180 点 (20%)	【小】270 点 (30%)	900 点	5.31
国際	30%	500 点 (50%)	200 点 (20%)	【小】300 点 (30%)	1000 点	2.95
駒場(普)	20%	360 点 (50%)	180 点 (25%)	【小】180 点 (25%)	720 点	4.07
町田	20%	450 点 (50%)	150 点 (17%)	【小】300 点 (33%)	900 点	1.80
多摩科学技術	30%	500 点 (50%)	300 点 (30%)	【実】200 点 (20%)	1000 点	1.33
狛江	20%	600 点 (50%)	300 点 (28%)	【作】300 点 (22%)	1200 点	3.11
神代	20%	450 点 (50%)	150 点 (17%)	【作】300 点 (33%)	900 点	2.67
調布南	20%	500 点 (50%)	300 点 (30%)	【小】200 点 (20%)	1000 点	2.15
成瀬	20%	500 点 (50%)	200 点 (20%)	【小】300 点 (30%)	1000 点	1.89
芦花	20%	400 点 (50%)	200 点 (25%)	【作】200 点 (25%)	800 点	2.89
松が谷(普)	20%	500 点 (50%)	300 点 (30%)	【作】200 点 (20%)	1000 点	3.42
松が谷(外)	30%	500 点 (50%)	300 点 (30%)	【作】200 点 (20%)	1000 点	1.71
日野	20%	600 点 (50%)	250 点 (21%)	【作】350 点 (29%)	1200 点	3.38
小川	20%	500 点 (50%)	250 点 (25%)	【作】250 点 (25%)	1000 点	2.25
片倉(普)	20%	450 点 (50%)	350 点 (39%)	【作】100 点 (11%)	900 点	3.42
町田総合	30%	500 点 (50%)	300 点 (30%)	【作】200 点 (20%)	1000 点	1.50
山崎	20%	500 点 (50%)	300 点 (30%)	【作】200 点 (20%)	1000 点	1.73
野津田(普)	20%	300 点 (46%)	300 点 (46%)	【作】50 点 (8%)	650 点	0.83

① 調査書について

調査書とはいわゆる成績表のことであり、9教科の5段階の評点の合計である45点満点を、各学校が満点とする点数に換算する。

② 小論文・作文・実技検査

2013年度より、推薦入試において、小論文、作文、実技検査のどれか1つ以上を実施することになった。2025年度入試においては、小論文が41校、作文が109校、実技検査が16校で実施された。複数の検査を実施するのは、駒場の保健体育科と科学技術と立川の創造理数科である。小論文は進学指導重点校などの難関校で実施されることが多く、実技検査の実施校は全て専門学科だった。

■ 推薦入試の小論文出題例(2024年度)

高校名	検査時間	問	内容	字数
日比谷	50分	小問1	関東大震災の被害の原因について、資料から読み取り答える。	140～160
		小問2	地図記号を新たにデザインし、その地図記号が新たに加わることによる社会的意義について、資料を参考に述べる。	400～440
戸山	50分	小問1	資料から考えられる少子化の原因を説明する。	100～150
		小問2	資料から理想の数の子どもをもたない理由を一つ選び、それに対する対策を説明する。	100～150
		小問3	実験の結果から、ハンノキがどのような手段を用いて、植物コミュニケーションを行っていると考えられるか、仮説を立てて、実験結果との関連性も含めて説明する。	150～200
		小問4	小問3で考えた仮説を証明するための実験と、仮説が正しい場合に実験でどんな結果が得られるかを説明する。	100～150
駒場 (普)	50分	理科分野 小問1	振り子の実験のレポートのデータを読み、グラフに記入する。	—
		理科分野 小問2	データから読み取ったことをもとに、糸の長さと1往復にかかる時間の関係性について示す。	—
		社会分野 小問1	歴史のレポートのデータを読み、生糸の価格の変化について示す。	—
		社会分野 小問2	資料などから読み取れることを踏まえて、生糸の価格変化が生じた理由を示す。	80～120

③ 面接

■自己PRカード

推薦入試では志願者全員が「自己PRカード」を提出する。ただし、一般入試では面接を実施する高校のみに提出する。「自己PRカード」は、2007 年度から得点化が廃止されて面接の際の資料として活用されることとなった。内容は「志望理由・中学校生活の中で得たこと・高等学校卒業後の進路」の3項目となっている。

■面接内容

面接では、「志望理由」「中学校時代に頑張ったこと」「高校で力を入れたいこと」「高校卒業後の進路」など基本的なことを聞かれることが多い。事前に内容を練り込んで話す練習をしていれば問題ない。

④ 文化・スポーツ等特別推薦

2025 年度は都立高校の 89 校で、通常の推薦入試の他に「文化・スポーツ等特別推薦」を実施した。「運動部に所属し全国レベルの大会で活躍した生徒」や、「文化活動・ボランティア活動などで目覚ましい実績を上げた生徒」などを対象に選考するが、どんな種目でも良いのではなく、各高校が求める種目の実力がないと合格はできない。また「入学後も同じ分野で活動続ける意思を持つ」ことが出願条件である。

■特別推薦実施例(2025 年度)

種目	高校名	種目	高校名
硬式野球	目黒(男 3)、広尾(男 3)	サッカー	松が谷(普)(男 2)
	千歳丘(男 6)、松が谷(普)(男 2)		富士森(男 4)、片倉(普)(男 4)
	富士森(男 6)、日野(男 6)		狛江(男 3)、若葉総合(女 4)
	小川(男 3)、片倉(普)(男 6)		府中東(男 4)など
	狛江(男 3)、府中東(男 4)など		
バスケットボール	目黒(男 3 女 3)、広尾(男 3 女 3)	吹奏楽	富士森(男女 5)
	富士森(女 3)、日野(男 3 女 3)		片倉(普)(男女 6)など
	若葉総合(男 2)、府中東(女 4)など		
バレーボール	日野(女 3)	陸上競技	松が谷(普)(男女 2)
	小川(男 3 女 3)		片倉(普)(男女 3)
	府中東(女 4)など		府中東(男女 2)
			若葉総合(男女 4)など
バドミントン	町田総合(男 3 女 3)など	アーチェリー	山崎(男女 2)など
剣道	松が谷(普)(男 2 女 2)など	ビジネス	千早(男女 2)など

⑤ 理数等特別推薦

2024 年度より科学技術と立川の創造理数科では、口頭試問による推薦入試を実施した。両校とも男女 8 名の定員枠を設けている。

(2) 一般入試(第一次募集)【入学定員の 80%程度】

入学定員から推薦入試合格者数を引いた残りの 60%～90%を選抜する。① 学力検査(入試得点)、② 調査書の評定(内申点)、③ 英語スピーキングテスト(ESAT-J)(20 点満点)の 3 項目を 1020 点満点になるように換算した「総合得点」に、面接や実技検査などを行った場合はその結果(得点)も加えた「総合成績」で選考を行う。例年、出願締切りは 2 月 6 日で入試が 2 月 21 日頃である。なお、志願変更が 1 回可能である。

① 学力検査(入試得点)

学力検査は基本的に英語・数学・国語・理科・社会の 5 教科で実施する。ただし、実技検査を行う総合芸術・駒場(保健体育科)・野津田(体育科)の 3 校は、英語・数学・国語の 3 教科で実施する。配点は各教科 100 点満点だが、特定の教科に比重をかける傾斜配点を行う高校があり、国際(国際)・多摩科学技術・松が谷(外国語)など全 8 校である。さらに、上位校は英数国の 3 教科を中心に自校作成問題で学力検査を行う。なお、2016 年度より、採点ミス防止のためマークシート方式が採用された。選考では、5 教科もしくは 3 教科で実施した入試得点(各教科 100 点満点)を、700 点満点に換算する。

■ 自校作成問題(独自問題)実施校(2025 年度)

進学指導重点校の日比谷・西・国立・戸山・青山・立川・八王子東と進学指導推進校で単位制の新宿・墨田川・国分寺の計 10 校は、英・数・国で独自問題を実施した。他に、国際は英語のみ独自問題である。

② 調査書の評定(内申点)

中 3(2 学期)の 9 教科 45 点満点の内申点(評定)を、学力検査実施教科が 5 教科ならば 65 点満点、3 教科ならば 75 点満点の換算内申にする。さらにそれを 300 点満点に換算する。

■ 換算内申の求め方

学力検査の実施教科数	換算内申の求め方									
5 教科 (英数国理社)	英	数	国	理	社	音	美	保体	技家	計
	5	5	5	5	5	5	5	5	5	45 点満点
	↓	↓	↓	↓	↓	↓×2	↓×2	↓×2	↓×2	↓
	5	5	5	5	5	10	10	10	10	65 点満点
3 教科 (英数国)	英	数	国	理	社	音	美	保体	技家	計
	5	5	5	5	5	5	5	5	5	45 点満点
	↓	↓	↓	↓×2	↓×2	↓×2	↓×2	↓×2	↓×2	↓
	5	5	5	10	10	10	10	10	10	75 点満点

③ 英語スピーキングテスト(ESAT-J)

中学校における「話すこと」の指導を充実させ、高等学校での「使える英語力」のベースとするとともに、「話すこと」に関する評価を導入するために、2023 年度入試から ESAT-J(東京都中学校スピーキングテスト)が導入された。中学 3 年生全員が 1 回だけ受験をする。テストは東京都教育委員会が監修するが、運営は民間団体が行う。タブレット等の端末に解答音声を録音する形式で実施する。

■ テスト実施と結果発表(2025 年度)

・実施日:2024 年 11 月 24 日(日) 予備日:12 月 15 日(日)

・結果発表:WEB 2025 年 1 月 7(火) 郵送 1 月 20 日(月)

予備日結果発表:WEB 2025 年 1 月 24 日(金) 郵送 1 月 30 日(木)

■ 英語スピーキングテスト得点

評価は 20 点満点の 6 段階で、A:20 点、B:16 点、C:12 点、D:8 点、E:4 点、F:0 点となる。総合得点 1020 点満点中の 20 点と配点が少ないうえに、同じ高校を受検する生徒間では大差がつきにくいと考えられる。

④ 合格者の決定方法

2024 年度入試より全ての高校で男女別定員制を廃止した。

■ 総合得点による選考

総合得点＝学力検査得点＋調査書得点＋英語スピーキングテスト(＋面接・実技検査得点)
で計算する。

総合得点計算例(学力検査5教科実施の場合)

(例)Aくん

	英	数	国	理	社	音	美	保体	技家	計
入試得点	85	76	82	78	92					413
内申	5	4	4	5	4	3	5	3	3	36

(i) 入試得点を学力検査得点に換算する

$413(\text{入試得点}) \div 500(\text{入試満点}) \times 700(\text{学力検査得点満点}) = 578.2(\text{点})$

学力検査得点＝578 点(小数点以下切り捨て)

(ii) 内申点から換算内申点を求め、調査書得点に換算する

換算内申＝(英数国理社の合計 22)＋(音美体技の合計 14)×2＝50(点)

$50(\text{換算内申}) \div 65(\text{換算内申満点}) \times 300(\text{調査書得点満点}) = 230.8(\text{点})$

調査書得点＝230 点(小数点以下切り捨て)

(iii) 英語スピーキングテスト(20 点満点)を加える

英語スピーキングテスト結果:B＝16 点

(iv) 総合得点を求める

$578(\text{学力検査得点}) + 230(\text{調査書得点}) + 16(\text{英語スピーキングテスト}) = 824(\text{点})$

(3) 第二次募集

一般入試(第一次募集)で入学手続き者が募集定員に達しない時は、第二次募集を行う。学力検査は英語・数学・国語の 3 教科で実施され、学力検査得点と調査書得点の比率は、6:4 である。

また、当初から一般入試の募集定員の一部を、この第二次募集の期間に募集する「前後期分割募集」を実施するところもある。

3. 国私立高校入試について

(1) 私立高校の入試制度

私立高校の入試制度は大きく4つに分類することができる。①推薦 ②専願(単願) ③併願 ④オープン入試(一般入試)である。

① 推薦

■ 一般的な推薦制度

一般的な推薦制度とは、内申点を利用して第一志望の私立高校に合格する方法である。12月15日頃に、中学校を通じて希望する私立高校へ入試相談を行う。その高校が定めた基準(内申点や欠席日数など)を満たしていれば出願が認められる。この時点で確約を得たことになるが、他の高校には出願できなくなる。ほとんどの高校が1月22日前後に面接や作文を実施して、人物に問題がないか確認が行われる。

■ 特殊な推薦制度

法政二・法政国際(旧・法政女子)は入試相談のみで合格の確約が出るため、作文の提出のみで面接や試験を実施しない。この形式を書類選考と呼ぶ。一方、他の難関校は入試相談によって推薦の出願を認めるだけで、その後に適性検査(主要3科か5科の学科試験)や小論文や厳しい面接などで合否を決定する。こうした高校は倍率も高いので、推薦入試で不合格だった場合に備えて他校受験の準備や計画が必要である。

◆独自の推薦制度を導入している高校例◆

高校名	試験内容	確約
法政二・法政国際(旧・法政女子)	書類選考後の出願時に作文提出	有
早大高等学院	ハイレベル面接(30分・面接官3人:生徒1人)	無
青山学院	作文(出願時)・適性検査(3科)・面接	無
日本女子大附	面接	無
中央大・明大八王子	適性検査(中大5科、明大八3科)・面接	無

■ 他校を受験できる推薦制度はなくなった

一部の私立高校では、推薦の定員枠で後述する併願入試を実施していた。しかし、2013年度に神奈川県や東京都の公立(都立)入試制度が変更されて以降、推薦入試に合格した後は他校を受験できなくなった。現状では、推薦入試は当該高校を第一志望としなければならない。

② 専願

専願は、「単願」と呼ばれることもある。第一志望を前提とした入試制度であり、その意味では推薦制度とほぼ同じ役割を持つ。確約をもらう時期も推薦と同じく12月15日頃の入試相談時である。内申基準は、推薦より専願のほうがやや緩やかになっていることが多い。そのため、推薦の内申基準に届かないときに、専願制度を利用する。

推薦と異なる点は、一般の受験者と同様に学科試験を受けることである。しかし、これは合否を決定するためではない。一般受験の定員枠で合格させ、入学後のクラスを決定するためである。学校によっては、学科試験の結果が優秀だった場合に特進クラスへのスライド合格を認める制度もある。

③ 併願

■ 一般的な併願の仕組み

併願は、俗に「すべり止め」とも呼ばれる。主に公立（都立）高校を第一志望とする生徒を対象とした制度である。各私立高校には、独自に定めた併願の内申基準がある。それを満たしていれば、中学校を通じた入試相談で合格の確約が提示される。一般の受験生と同様に学科試験を受ける必要はあるが、受験さえすれば合格するので、その後の公立（都立）高校受験にも安心して臨むことができる。ただし、公立（都立）高校が不合格になった場合は、併願制度を利用した私立高校に進学しなければならない。

■ 他の私立高校と併願できることもある

公立（都立）だけでなく、他の私立高校に対しても併願を認める私立高校が存在する。公立（都立）と私立高校の両方を一般受験する場合や私立高校が第一希望の時に、併願可能な私立高校を選ぶ必要がある。

◆ 私立高校と併願可能な高校例 ◆ 注：内申の詳細は各校のページを参照下さい。

内申の目安	高校名
5 科 23 以上	中央大横浜・山手・青稜・桐蔭（プ）・都市大等々力・朋優・日本大（総進）
5 科 21 前後	桜美林（進）・佼成（総）・駒澤・文教大付・目黒日大・東海大相模・麻布大附（進）
5 科 18 前後	駒場学園（進・国）・目黒学院（アド）・保善（大選）

■ 「書類選考」という名称の併願制度もある

一部の私立高校では、内申基準のみで学科試験を課さない「書類選考」という併願制度がある。私立をオープン（一般）受験する場合に、併願校で受験日を拘束されないという利点がある。

◆ 学科試験を受けずに併願可能な高校例 ◆ 注：内申の詳細は各校のページを参照下さい。

高校名	詳細
麻布大附・英理女子・桐蔭・中央大横浜	作文を提出。
藤嶺藤沢・鶴見大附・横浜商科大・横浜・横浜創学館・武相	エントリーシートなどを提出。
向上	特になし。

■ 確約のない併願制度もある

一部の私立上位高校では、内申基準の他に入試でも一定以上の得点を課す併願制度がある。その得点に満たなければ不合格となるので、事前に得点力を確認しておく必要がある。

◆ 併願で一定の入試得点を課す高校例 ◆

高校名	入試点数
朋優	3 科合計 130 点以下は不合格。
都市大等々力	併願基準を満たしていても 3 科 120 点、各科 20 点以下は不合格。

注：桜美林は 2019 年度より入試得点を課さなくなった。

④ オープン入試

オープン入試は「一般入試」と呼ばれることもある。オープン入試の定員枠は専願や併願とは別に設けられ、受験当日の点数のみで合否が決まる。内申点が低くても実力のある生徒にとっては、有利な制度といえる。ただし、難関校では中学の指導要領を越えて出題されることがあり、併願制度のない國學院などと比較すると、併願とオープンの枠が同じ中央大横浜などは合格者が少ない。また、2次募集を実施する高校もある。

◆オープン入試を実施する難関校の例◆

高校名	高校名
東京学芸大学附属(国立)	中央大学
お茶の水女子大学附属(国立)	中央大学附属
東京科学大学附属科学技術(国立)	桐光学園
慶應義塾	明治学院
慶應義塾女子	法政大学第二
早稲田実業	法政大学国際(旧・法政大学女子)
早稲田大学高等学院	日本女子大学附属
青山学院大学高等部	明治大学付属八王子

◆私立高校の入試カレンダー◆

12月

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
成績発表・三者面談											入試相談 (推薦・専願・併願)																			

1月

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31

2月

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28			
																														
出願 (専願・併願・オープン)								入試(専願・併願・オープン) 合格発表翌日																						

注：一般的な高校を例としています。高校によって時期が違います。

(2) 受験校を選ぶ際のポイント

① 内申基準について

私立高校を推薦・専願・併願などで受験する場合、各校で内申基準を設定している。正式発表はその年度の10月1日となっているが、説明会などで事前に公表することも多い。その表記は多種多様であるが、次のようなものが代表的である。

- ・神奈川県公立高校の入試に使用する内申点をそのまま使用する(135点満点)
- ・3年生の12月に出る内申点を基準にする(3科・5科・9科)
- ・2年生の学年末と3年生の12月に出る内申点を合算する(3科・5科・9科)

内申点に加え、以下のものも評価対象になるが、欠席日数を除き、多少の加点程度の場合がほとんどである。欠席日数に関しては、入院等特別な事情ではない限り、出願資格を失う。

- ・部活動の実績(一般的に県・都大会レベル以上が必要)
- ・検定(英検・漢検・数検などで3級以上。準2級以上が必要な場合も多い)
- ・生徒会役員・委員会・部活動などで「長」として活動した実績
- ・課外活動の実績(ボランティア・社会福祉活動など)
- ・中学3年間の欠席日数が〇〇日以内(学年ごとの場合もある)

② 公立(都立)高校のみの受験は避ける

公立(都立)高校のみを受験するのは、なるべく避けるべきである。緊張してしまったり体調が悪かったりして、全力が出せない場合があるからである。

加えて、併願校を受けずに公立(都立)高校のみを受験すると、必ず合格できそうな安全圏の高校を選ぶことになる。本来の学力よりもやや下の高校を受験しなければならないので、高校を選択する上でも不利であると言える。

さらに、万が一不合格になった場合は、二次募集を行っている高校を探すことになる。公立(都立)高校では必ずしも募集するとは限らず、本人の学力に合う私立高校が募集を行う保証もない。よって、公立(都立)高校が第一志望であっても、よほどの事情がない限りは併願校を受ける準備をするべきである。

③ 公立(都立)トップ校受験に私立一般受験も加える

公立(都立)トップ校を受験して不合格だった場合、進学先は私立の併願校となる。しかし、内申による確約がある併願校は、公立(都立)トップ校に比べて大学進学実績が落ちてしまうことが多い。将来の選択肢を有利にするためには、大学付属校や進学実績の良い私立も一般受験しておくことをお勧めする。

特に公立(都立)トップ校は合格者平均点が高得点化していて、公立(都立)高校のトップ・上位校では9割近い正解率が求められる。ミスをせずに解く力や出題傾向が変わっても得点できる応用力が必要である。また、都立で自校作成問題を使用する高校では、偏差値65前後の私立難関校に匹敵するレベルの問題が出題される。偏差値70前後の国私立難関校レベルの問題を解くことは、公立(都立)入試の問題を早く確実に解くことにも役立つ。

また、私立難関校にオープン入試で合格しておくことにより、万が一の際に併願校のレベルまで進学先を落とすリスクを避けられる。費用がかかる私立に通うことになるのであれば、より将来の選択肢が多い高校を選択すべきであろう。

いずれの場合にせよ、公立(都立)高校が第一志望でも私立を一般受験するメリットは十分にある。ただし、私立難関校の一般入試では、高校レベルの数学公式や英熟語などが出題されることもあるので、受験の際には十分な対応が必要となる。

④ 3年間通いたいと思える高校を選ぶ

例年、夏休みから秋にかけて学校説明会・進路相談会等が集中して開催される。成績が上がった時と変わらなかった時と下がった時を想定して、2～3校は見学して欲しい。その中で優先順位をつけ、12月に行われる中学校の三者面談の席上で担任に意志を伝える。「すべり止め」だからと言って安易に選ぶのではなく、万が一の場合を考え、十分に調べて納得した上で選ぶべきである。

⑤ 共学校だけではなく、男子校・女子校も検討する

共学校は人気が高いが、共学だけに絞ってしまうと選択肢が狭まることが多い。共学校のみを検討するのではなく、男子校や女子校にも候補を広げ、通学可能な地域の高校は可能な限り見学に行ってもらいたい。実際に見学してみると、「想像以上に良かった」と、志望校を変更する場合も多い。例えば、日本女子大附などは大学の附属校であるため、大学受験を意識せずのびのびと高校生活を送ることができるメリットもある。「男子校(女子校)だから…」という理由だけで進学先の候補から外してしまうのはもったいない。

⑥ 入学手続き費用の「延納」「返還」制度を上手に利用する

ここまで述べた通り、公立(都立)高校を第一志望にしている生徒のほとんどは、併願として私立高校を受験する。しかし、合格発表日は私立高校のほうが早いので、先に入学金を支払うと公立(都立)へ合格した時に経済的負担が大きい。

そこで、私立高校の中には、公立(都立)の合格発表日以降に手続き日を設定したり、発表日まで費用の延納を認めたり、一部を返還したりするところがある。この制度を上手に活用することにより、経済的にムダのない高校入試が可能になる。

◆手続きが公立(都立)合格発表日以降の高校例◆

■ 神奈川県

英理女子学院・大西学園・柏木学園・鶴沼・向上・光明学園相模原・相模女子大・捜真女学校・橘学苑・鶴見大附・藤嶺学園藤沢・白鵬女子・藤沢翔陵・武相・緑ヶ丘女子・横浜・横浜学園・横浜商科大・横浜翠陵・横浜清風・横浜創学館・横浜富士見丘学園など

■ 東京都

共立女子第二・国本女子・京華・佼成学園・佼成学園女子・駒場学園(普)・品川翔英・自由ヶ丘学園・松蔭大附松蔭・正則・玉川学園・帝京大・東京家政学院・東京実業・東京都市大等々力・東洋・日本工業大駒場・日本学園・八王子学園八王子・八王子実践・羽田国際・富士見丘・保善・目黒学院・和光など

◆届出をすれば延納できる高校例◆

■ 神奈川県

星槎・清心女子・法政大学国際・法政大学第二・横浜隼人など

■ 東京都

関東国際・工学院大附・麹町学園女子・国士舘・駒沢学園女子・駒澤大・品川エトワール女子・
下北沢成徳・正則学園・青稜・専修大附・多摩大目黒・東京・トキワ松学園・日本体育大荏原・
フェリスシア(旧・鶴川)・文教大付・明治学院(一般②)・目黒日本大・八雲学園など

◆手続き費用の一部だけを納入する高校例◆

■ 神奈川県	高校名
5 万円以内	麻布大附(5 万円)・桐蔭学園(5 万円)など
10 万円以内	東海大相模(6 万円)・桐光学園(10 万円)・日本大(10 万円)など
15 万円以上	鎌倉学園(15 万円)・日本女子大附(25 万円)・日大藤沢(15 万円)・ 山手学院(20 万円)など

■ 東京都	高校名
5 万円以内	桜美林(3 万円)・東海大高輪台(5 万円)・日大櫻丘(3 万円)・ 日大三(B 志願 5 万円)・日大鶴ヶ丘(特進・総進 3 万円)・朋優(5 万円)など
10 万円以内	國學院(7 万円)など
15 万円以上	青山学院(32 万円)・中央大(30 万円)・明大明治(30 万円)・ 早大高等学院(26 万円)など

◆納入した費用を一部返還する高校例◆

注: 返金される金額(返金されない金額)で記載

■ 神奈川県

慶應義塾 60.1 万円(35.5 万円)

■ 東京都

慶應女子 58 万円(34 万円)・早稲田実業 12.6 万円(30 万円)・早高院 47.8 万円(26 万円)

⑦ 私立高校の学費補助を利用する

2025 年 4 月から国の補助は世帯年収制限がなくなり、2026 年度から増額される予定である。

◆私立高校無償化(高等学校等就学支援金制度)◆

時期	世帯年収制限	国の支援額	月換算
2025 年 3 月まで	590 万円まで	39 万 6 千円	3 万 3 千円
2025 年 4 月から	制限なし	39 万 6 千円	3 万 3 千円
2026 年 4 月から	制限なし	45 万 7 千円	約 3 万 8 千円